

# 平成17年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ヒラメ

学名 *Paralichthys olivaceus*

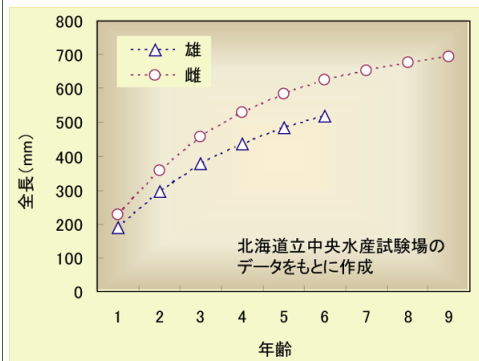
系群名 北海道系群

担当水研 北海道区水産研究所



## 生物学的特性

寿命: 不明  
成熟開始年齢: 雄2歳、雌3歳  
産卵期・産卵場: 6～8月、水深20～50mの浅海域  
索餌期・索餌場: 不明  
食性: 仔稚魚では動物プランクトン、着底期稚魚ではアミ類、未成魚・成魚では魚類・エビ類・イカ類等が主要な餌  
捕食者: 詳細は不明

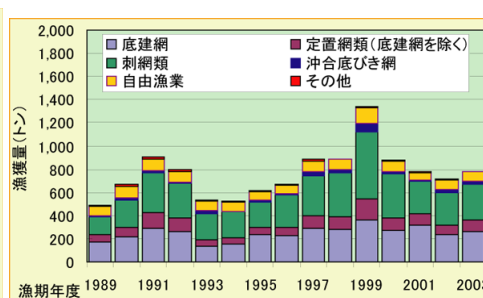
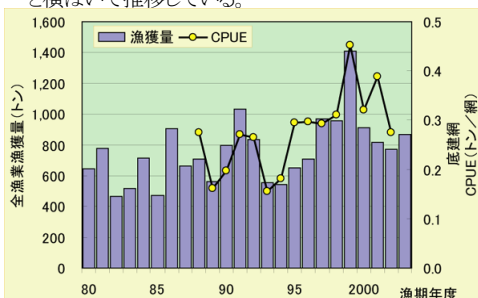


## 漁業の特徴

北海道沿岸のヒラメは主に日本海と津軽海峡において、底建網等の定置網、刺し網、釣り、沖合い底びき網などで漁獲される。漁獲量は6～7月に多く、10～12月にも増加する。6～7月は水深20～50mの海域で、10～12月は水深50～120mの海域で漁獲される。

## 漁獲の動向

北海道のヒラメ漁獲量は1960～70年代のおおよそ1,500～2,000トンが1980～90年代に500トン前後へ減少し、以降500トン～1,000トン推移している。近年は1993～94年度(北海道のヒラメ漁期年度、後述)の500トン台から増加し1999年度の1,411トン以降減少、2001年度以降は2001年度818トン、2002年度774トン、2003年度865トン(暫定値)と横ばいで推移している。



## 資源評価法

ヒラメ北海道系群の資源評価には、漁獲量と底建網漁業のCPUE(資源量指数値)を使用した。また、全長組成の推移も参考にした。なお、本年の資源評価から、資源水準と資源動向を判断するために参照する漁獲量とCPUEなどについて、北海道におけるヒラメの漁業実態に則した漁期年度(8月1日～翌7月31日)単位に変換して使用した。ABCは暦年単位の漁獲量にもとづいて暦年のABCとして算定した。

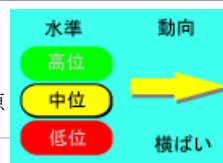
## 資源状態

最近20年間の漁獲量から、2003年度の資源水準は中位と判断される。底建網漁業におけるヒラメのCPUEは1999～2000年度に減少した後、2000年度以降は横ばいである。また、2000年度以降の漁獲量も変動しつつも横ばいである。全長組成と漁獲量を用いて推定した漁期年度ごとの全長階級別組成では、2003年度は漁獲量が同レベルの年度と比べて大きな変化は見られず、加入量が顕著に変化するとは考えられない。以上から、資源動向は横ばいと判断される。

## 管理方策

2003年度の資源水準は中位であると判断され、2000年度以降の底建網漁業CPUEの推移から資源動向は横ばいと判断された。資源状態が横ばいであることから、ABClimitは2001～2004年の平均漁獲量×1.0とした。ABCtargetはABClimit×0.8とした。また、現在実施中の全長35cm未満の漁獲制限遵守を徹底し成長乱獲を抑制することが必要である。

|           | 2006年漁獲量 | 管理基準            | F値 | 漁獲割合 |
|-----------|----------|-----------------|----|------|
| ABClimit  | 780トン    | 1.0Cave4-yr     | -  | -    |
| ABCtarget | 620トン    | 0.8・1.0Cave4-yr | -  | -    |



- ABCは10トン未満を四捨五入

資源評価のまとめ

- 資源水準は最近20年間の漁獲量から中位と判断される
- 資源動向は底建網漁業のCPUEの推移から横ばいと判断される

管理方策のまとめ

- 2006年のABCは、2001～2004年の資源動向が横ばいであることに配慮して設定
- 未成魚保護のための全長35cm未満の個体の漁獲制限遵守を徹底し、成長乱獲を抑制することが必要である

資源評価は毎年更新されます。